

はぼまい 歯舞地区マリンビジョンニュース

Vol.82
2018.2



歯舞地区マリンビジョン協議会事務局では、地域協働の取組みにより作られた『歯舞地区マリンビジョン計画(平成19年3月策定)』の行動計画について、個々の推進状況など、活動の様子について「歯舞地区マリンビジョンニュース」を発行して、地域の皆様方にお知らせしています。

発行・編集：歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

上五島町漁業との人事交流

平成29年11月15日～16日の2日間、「北と南の交流事業」として長崎県の上五島町漁協に歯舞漁協の職員、四十物尚弘さんを派遣し、人事交流を行いました。

魚種や漁法が異なる環境で研修する事で、新たな視点を発見し、人材育成につなげることを目的に、平成19年より毎年実施している取組です。

四十物さんは漁場や養殖施設の視察、発送前の魚の処理や運搬作業、セリの手伝いや魚の神経抜きなどを体験しました。

魚の価値向上に対する意見や、丁寧な魚の扱い方など、勉強になる点が多くあり、地元を持ち帰り今後の業務に活かしていきたいと話していました。



魚の神経抜きの研修の受ける四十物さん

東京都新宿駅で根室物産展

平成29年12月1日～3日の3日間、東京都新宿駅の地下イベント広場にて「根室物産PR・販売事業」の物産展が行われました。

歯舞漁協からは、「はぼまい昆布しょうゆ」や「早煮昆布」、「さんま缶詰」、「鮭トバ(ソフト)」、昨年から新たに販売した「はぼまい昆布しょうゆ 贅沢仕上げ」を用意したほか、今回は新たに「花咲がにてっぼう汁缶詰」を販売しました。初出品である「花咲がにてっぼう汁缶詰」は、都会の人々には稀であったためか、興味を示す方も多く、老若男女問わず多くの方が商品を購入してくださいました。

商品の試食提供も行いましたが、歯舞早煮昆布を使用して調理した結び昆布、鮭トバ(ソフト)については共に「身が柔らかく、食べやすい」等の好評を得ることが出来ました。この出展での販売商品は高い評価をいただくことができましたので、更なる消費拡大を目指し様々な事業推進を行えればと思います。



売り場の様子



東京海洋大学で講演

平成 29 年 12 月 19 日、東京海洋大学で開催された「漁協を核とした漁村地域振興に関する講演会」に歯舞漁協の伊藤専務理事と中村参事が講師として招かれ、歯舞地区マリンビジョンの取組について講演しました。

伊藤専務理事からは「北方領土問題及び漁業協同組合の成り立ちと役割について」、また中村参事からは「マリンビジョンや渚泊の取組について」、それぞれご紹介させていただきました。学生らはメモを取りながら熱心に耳を傾けて聞いており、漁協という組織や当地域の取組について理解を深めてもらえたのではないかと思います。



中村参事の講演の様子



伊藤専務理事の講演の様子

青森県漁港漁場研修会で講演

歯舞漁協の伊藤専務理事が平成 30 年 1 月 25 日、青森県青森市で開催された「青森県漁港漁場整備事業研修会」（青森県漁港漁場協会主催）で講演し、歯舞地域のマリンビジョンの取組を紹介しました。

同研修会には、青森県下の漁協、団体、関連企業、行政など約 150 名が出席しました。

伊藤専務理事は講演の中で、歯舞水産物ブランド化推進協議会が推進する「一部会一品運動」により、「一本立ち歯舞さんま」や「塩水パック日の出のうに」、「活めたらふとっぱら」など、現在商標登録は 21 品目にも及ぶことを説明。また、地元小学校を対象とした漁業体験学習や歯舞こんぶ祭りなどの催事、クルージング、女性部との植樹活動などを紹介しました。

さらに地域活性化について、「地域にないものを無理につくるより、地域にあるものを掘り起こしながら、その特性を活かそう」と歯舞地区マリンビジョンの基本理念を話し、参加した漁協関係者からは「参考にしたい」という声が上がりました。



歯舞産ホツカイシマエビ「舞撰^{まいせん}」を商標登録



歯舞漁協は地場産ホツカイシマエビを「舞撰（まいせん）」の名称で商標登録し、ブランド化に乗り出しました。

見た目や大きさなどより優れたエビを厳選し、出荷用パックはエビの赤色が映える黒色に変更、ステッカーも黒を基調にブランド名「舞撰」を金色で表し、高級感あふれるデザインとなりました。

村内茂歯舞北海えび漁業部会長は「これを機に、より一層 PR に力を入れていきたい」と話し、今後のブランド定着に向け期待が高まります。

編集・発行・お問い合わせ

編集・発行

歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

お問い合わせ

事務局 担当：根室市水産経済部水産港湾課水産振興担当

電話：0153-23-6111 FAX：0153-24-8692

